

## 会議・視察報告

## モンゴル経済フォーラム2018

ERINA 調査研究部主任研究員  
エンクバヤル・シャクダル

「シナジーを与えよう！」のスローガンの下、モンゴル経済フォーラム (MEF) が2018年5月21～22日に、ウランバートルの政府宮殿で開かれた。このフォーラムは、2010年から昨年を除いて毎年開催されており、2018年3月28日には、今年の会議の前段として官民予備対話が行われている。本会議には発表者100人以上、報道関係者50人以上、政策策定者 (内閣、国会、大統領府、地方政府)、民間部門、学術、市民団体から1070人以上の参加があった。初日のフォーラムでは、フレルス・オハナー首相が開会の辞を述べ、エンフボルド・ミエゴンボ国会議長が挨拶を行った。2日目の開会にあたっては、バトウルガ・ハルタマー大統領が挨拶を行った。

今年の MEF の目的は、国家が直面している課題を話し合い、解決の道を探ることであった。巨大プロジェクトの開始、資本市場発展の推進、ビジネス環境の改善、

税制・投資政策の改善など、長らく国家の関心事であった課題に対して認識を共有することは重要であった。4つの全体会合と12の分科会、2つの公開討論で、官民間の包括的な議論が交わされた。また、2つの招待講演と1つの講義が行われた。さらに、モンゴル首相とフォーラム支援団体並びに海外の投資家との間で、また、内閣官房長官、地方政府知事、民間部門代表者との間で、非公開のランチミーティングが行われた。

全体会合の主な議題として、モンゴルの投資に関する総合的な政策と実行されるべき具体策について、そして、モンゴルの発展モデルについて取り上げられ、一日を締めくくる各日の全体会合で、分科会の議論の振り返りが行われた。公開討論では、官民間の対話・協力をめぐる問題と、第4次産業革命について取り上げられた。

ワシントン DC にある世界銀行グループ

の貿易環境投資と世界実務競争マネージャーのチャン・クリスティーネ・ジャンウェイ博士は、「投資政策：グローバルな流れとモンゴルの新たな道」と題する基調講演の中で、三つの主要なメッセージを紹介した。このメッセージは、世界銀行グループが日本政府との協力の下でモンゴルで行われた「モンゴルの投資政策と農業投資促進 (IPAIP)」プロジェクトに関する最終報告書草案の中で示されたものである。

一つ目のメッセージは、外国直接投資 (FDI) の恩恵を最大限に享受するための新たな展望と戦略を作成することである。モンゴルの FDI の多くは鉱業部門に向けられており、政府は、天然資源希求型の FDI よりも効率性の向上に資する FDI を惹きつけたいと考えている。その結果として政府は、以下の2本柱の解決策を検討することができよう。一方で天然資源における FDI を最大化しつつ、もう一方で他部門への FDI を通じて経済の多様化を図るというものである。

二つ目のメッセージは、投資保証の強化を行うことであり、そのために、法や規制の効率的な適用と投資家対応の体系的な仕組み (SIRM) の実行、「2013年モンゴル投資法」を改正して内国民待遇 (NT)、最恵国待遇 (MFN)、公正衡平待遇 (FET) の保護を含めることが提案されている。

三つ目のメッセージは、投資誘致体制の再構築であり、そのために、投資誘致を扱う専門機関の立ち上げが提言された。2016年以前には独立した投資誘致機関があったが、2016年の総選挙の結果、解体され、新たに設置された「国家開発庁」に統合されている。

その他に、以下の議題が分科会で議論

## モンゴル経済フォーラム2018全体会合の様子



(出所) 筆者撮影

された。

- 現在と将来の金融・資本市場
- 責任ある鉱業と包括的な成長
- 旅行と航空輸送
- 巨大プロジェクトと国有企業：望ましい運用と民営化政策
- 我々の価値観、倫理観と社会的合意
- ウランバートルの都市経済と投資

- 地域経済の発展と地方分権政策
- 人的資本の開発：福祉から生産性へ
- モンゴルのブランド化
- 農業の発展と投資
- デジタル化とブロックチェーン
- 責任ある弾力的なリーダーシップ

聴講者からは、政策決定者に対して、議論された問題・取り組みへの提言・意見

が出された。例えば、経済学者ゲルスヘ氏は、官民対話の重要性を認め、専門家や非政府機関を加えた三者間の対話を進めることや、特に地方や辺境地域において適切かつ適時に情報提供を行うことが不可欠であると述べた。

[英語原稿を ERINA にて翻訳]